



Color Your World

共 創 学 部

現在を、
未来を、
共に創る

School of Interdisciplinary Science and Innovation

2021 - 2022

九州大学



共創学部

知のリンクをたどれ

世界規模での感染症の流行や経済格差・貧困、失われつつある自然環境とエネルギー資源の奪い合い、グローバリズムと宗教・民族の対立。

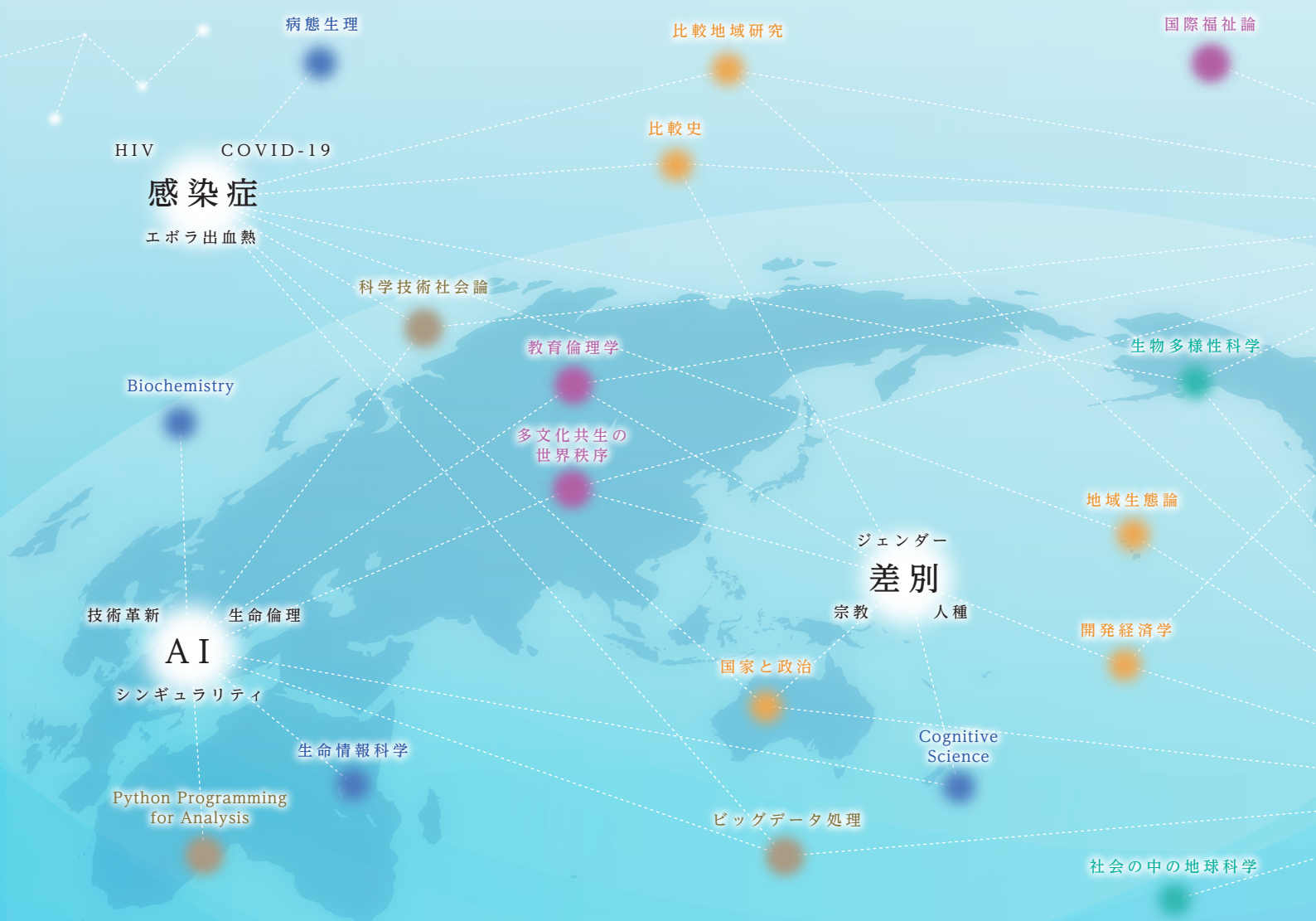
いま私たちが直面している問題の多くは、さまざまな要因が複雑に絡み合っているもので一つの専門分野の視点だけで解決するのは困難です。

学問分野の枠を超えて知のリンクをたどり、いくつもの視点・視野・視座から問題の解決方法を探る。

そんな学び方、アクションの起こし方を経験しておくことが

いまある、あるいは未来に起こりうる課題へのアプローチには不可欠です。

多様性を柔軟に受け入れ、活かすスタンスや幅広い知識と高度なコミュニケーション能力を養うために「九州大学共創学部」は誕生しました。





message

学部長

鏑木 政彦教授 KABURAGI Masahiko

学位：博士（法学）

専門分野：政治思想史

共創学部は2018年4月に設置された新しい学部です。学部名からはどんなことを学ぶ学部なのか、なかなかイメージができないことと思います。

共創学部が目指しているのは、学生一人ひとりが自分の問題意識に基づいて、文理の壁を超えて領域の異なる複数の学問分野を学び、課題を設定してその解決に自ら取り組む、新しい大学教育の実現です。このような主体的な学びを通じて、絶え間なく変化する世界の課題に持続的に取り組むことのできる、強くしなやかな知性をもった人物を育てること、それが共創学部の目標です。

日本の大学の多くは学問領域ごとの学部に分かれ、さらに学部の中でも学科やコースが分かれ、同じ学科やコースの中でも隣の研究室で行われている研究内容はよくわからず、しばしば「蛸壺」と揶揄されています。学問の各々の専門領域は極め難いほどに広く深く、世界的な競争が激しいため、このように領域を定めて研究を進めることには十分な理由があります。たしかに「蛸壺」の中に宝は隠されているのです。

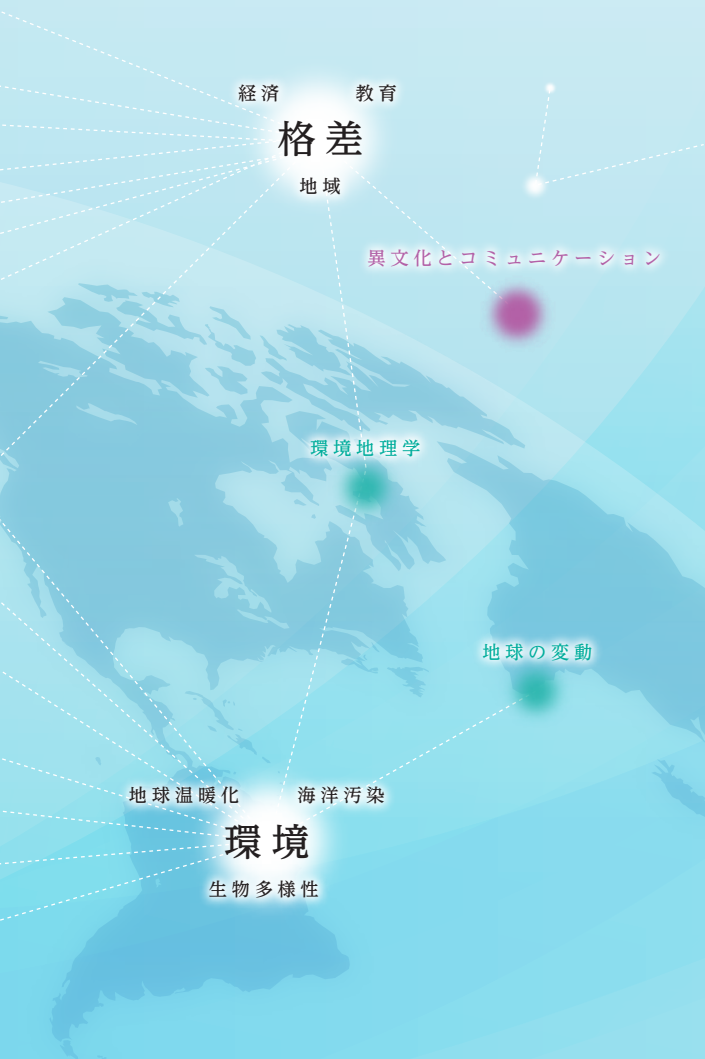
しかしながら、いま私たちが生きている現代は、人類が生み出した高度なテクノロジーや新しい社会システムによって、これまで隔てられていた領域が緊密に結び付けられたり、人間にしかできないと考えられていた仕事がマシーンによって置き換えられたり、新たな変化が起きている時代です。

このような時代に求められるのは、従来の専門領域に固執することなく、独自の問題意識に従ってそれとつぎえ、複数の領域が絡みあう新しいフィールドで、新たな知見や価値を発見していくことです。

共創学部は、このような新しいフィールドの課題を解決するために、複数の専門領域を結びつけて課題解決の知へとつなげる協働知創造、すなわち「共創」に習熟した人材の育成を目指しています。

そのために文理にまたがる多様な専門を有する51名の専任教員と29名の科目担当教員（2021年8月現在）を配置し、九州大学の教育リソースを活用しながら、多様な学問を結びつけて課題解決に取り組むことのできる教育環境を整えています。

共創学部は、個々の学生が既存の学部の枠を超えて自らのプロジェクトを遂行する新しい学部です。皆さんもぜひ参加してみませんか。教職員一同、皆さんの挑戦を心よりお待ちしております。





九州大学について

九州大学の起源は、1903年に設置された京都帝国大学福岡医科大学に遡ります。総合大学としての起源は、1911年1月に九州帝国大学が創立、同時に工科大学が設置され、同年4月医科と工科が合併し、堅実な歩みが始まりました。現在では、学生約19,000人(留学生約2,300人を含む)、教職員約8,000人が在籍し、2018年4月にスタートした共創学部を加えた12学部、18学府(大学院、教育組織)、16研究院(大学院、研究組織)、4専門職大学院、高等研究院、基幹教育院、5研究所、国内最大級の大学病院や附属図書館等を擁する我が国を代表する基幹総合大学として発展しています。

本学の概要

- 1903 京都帝国大学 福岡医科大学
- 1911 九州帝国大学
- 1949 (新制)九州大学
- 2003 九州芸術工科大学と統合
- 2004 国立大学法人九州大学
- 2018 **共創学部 開設**

学部

共創学部	文学部	教育学部	法学部	経済学部
理学部	医学部	歯学部	薬学部	工学部
芸術工学部	農学部			

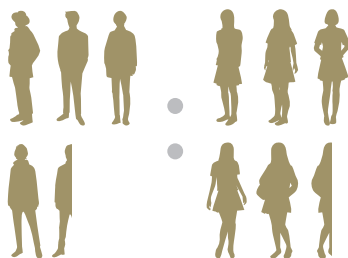
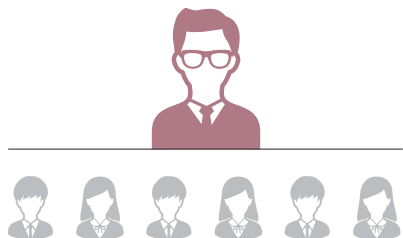
大学院

人文科学府	地球社会統合科学府	人間環境学府	法学府	法務学府
経済学府	理学府	数理学府	システム生命科学府	医学系学府
歯学府	薬学府	工学府	芸術工学府	システム情報科学府
総合理工学府	生物資源環境科学府	統合新領域学府		



データでみる共創学部

学生5~6人に
チューター教員 **1** 名

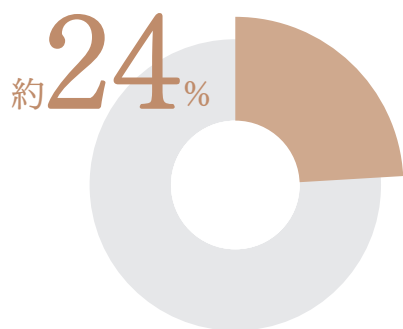


男女比 **44:56**

高校時代の
文理比 **55:45**



外国人教員



文理の枠を超えて

23部局

から
多様な教員が
集結

- 基幹教育院
- 人文科学研究院
- 比較社会文化研究院
- 人間環境学研究院
- 法学研究院
- 経済学研究院
- 言語文化研究院
- 理学研究院
- 医学研究院
- 薬学研究院
- 工学研究院
- 芸術工学研究院
- システム情報科学研究院
- 総合理工学研究院
- 農学研究院
- 応用力学研究所
- マス・フォア・インダストリ研究所
- 熱帯農学研究センター
- 科学技術イノベーションセンター
- 韓国研究センター
- 留学生センター
- サイバーセキュリティセンター
- エネルギー研究教育機構



福岡の魅力

住みよい都市
アジア第 **5** 位



※資料：MONOCLE (2018年号)



※資料：国勢調査 (H27年)

留学生数が多い！
政令指定都市第 **3** 位



※資料：独立行政法人日本学生支援機構
「平成30年度外国人留学生在籍状況調査結果」

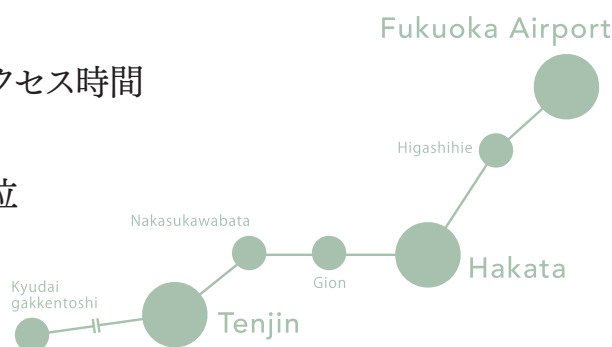
食事が美味しい街
ランキング
政令指定都市第 **2** 位



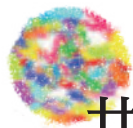
※出典：ブランド総合研究所「地域ブランド調査2016」

国際空港から
都心までのアクセス時間

世界第 **2** 位



※資料：森記念財団都市戦略研究所「世界の都市総合ランキングGlobal Power City Index YEARBOOK 2020」



共創学部教育

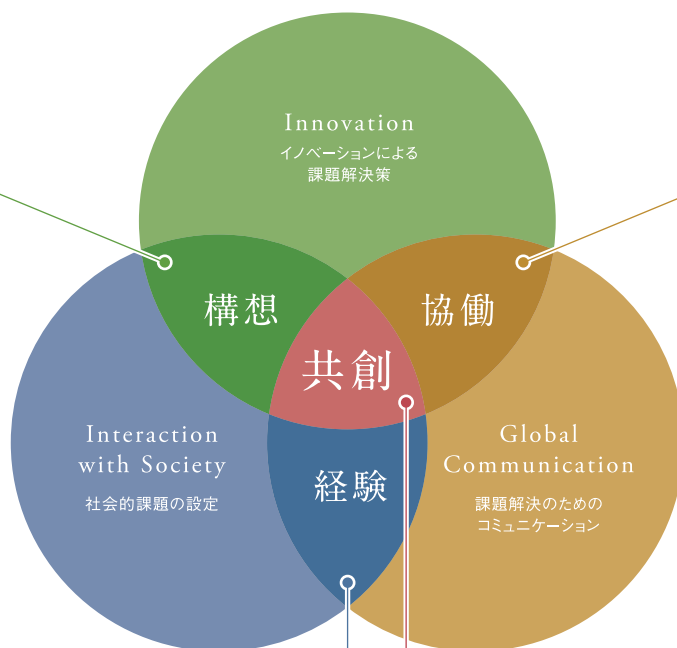
九州大学が全ての学生に求める「能動的学習能力」を礎にして、「共創」のために必要な態度・能力となる「課題構想力」、「協働実践力」、「国際コミュニケーション力」を養成します。これらの態度・能力の修得を通して「共創的課題解決力」の獲得を目指します。

課題構想力

現実の問題に対応するため適切に課題を設定し、既存の学知を組み合わせて解決策を模索する力。

協働実践力

構想した課題解決策について他者と議論し、他者の知見や能力をも組み合わせる形で協働し、実現可能な解決策を創造する力。



国際コミュニケーション力

課題が生じている現場で、解決策の実行のために多くの人にその内容を説明し理解と協力を得る力。

共創的課題解決力

「共創」の理念を実現するために必要な、「能動的学習能力」、「課題構想力」、「協働実践力」、「国際コミュニケーション力」の4つの力を総合して実際の課題解決に取り組む力。

育成する人材像

For Global Life

「国際的・地球的課題に対する解決策をコーディネートして、世界に効果的に情報発信できる実務家」

For Changing Society

「国際社会の課題を解決するために、新しい社会の仕組みや価値の創出をデザインする専門家」

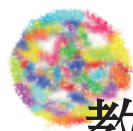
For Future Science

「文理を超えた学際的知見を修得し、国内外大学院に進学する、諸科学の境界・学際的領域の研究者」

学位

学術

(Bachelor of Arts and Sciences)



教育のポイント

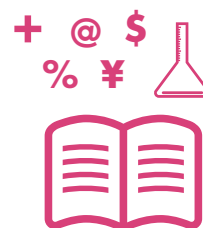
1 徹底した語学教育

習熟レベル・能力別のクラスによる授業により、高い英語運用能力を身につけるほか、現代の課題を認識し、常に最新の情報をグローバルな視野で入手する姿勢を養います。また、学術英語の語彙や表現、自らの意見を述べる力など、外国語による合意形成プロセスも学びます。留学生に対して行う日本語教育もレベル別・技能別のクラスで行います。



2 課題解決型のカリキュラム

複数の学問分野の知識や技能を組み合わせ、問題の解決方法を考えていくため、人文科学、社会科学、自然科学という既存の学問分野を横断・融合する内容のさまざまな授業を用意し、学生自身が設定した課題の解決に必要な複数の専門分野の高度な知識や技能、考え方を修得します。



3 実践的な協働学習

チーム型学習(Team-Based Learning)による「共創基礎プロジェクト」、「共創プロジェクト」を必修化することで、他者と協働して課題の解決を行う際の手法や技法、知識の活かし方、他者との意識の組み合わせ方や合意形成など、実際のプロセスを通して身につけます。



4 海外大学への留学等

海外大学への留学等を義務付け、すべての学生が異なる文化の中で学び、活動する経験を積むことで、国際理解や知識の拡大、言語能力とコミュニケーション能力の向上を図ります。



5 留学生とのクラス・シェア

日本人学生と外国人留学生が共に学ぶ授業スタイルを積極的に取り入れることで、日常的に日本人学生と外国人留学生の交流が行われる環境をつくります。互いに助け合い、コミュニケーションを取りやすい環境の中で、双方が国際的な感覚を養うことができます。



6 レクチャーシリーズ

国内外から研究者だけではなく、現場の実務に携わってきた実務家や行政官、クリエイターなどを講師として招き、その経験をお話いただくことで、学生の視野を広げることを目的としています。各分野の第一線で活躍している方々より、現在、この世界で実際のところ何が起きているのか、それに人々がどのように対処しようとしているのかを、学問的ないし実践的な視点から解説していただきます。





カリキュラム

課題に応じ自ら必要なことを学ぶという態度・志向性を身につけるために、学生自らが
つくる基幹教育科目と、それを基盤とした専攻教育科目からなる教育課程です。また、徹
※下記のカリキュラムは2021年度のカリキュラムです。2022年度から一部変更する可能性があります。

学びのエリア

人間・生命エリア

生命の発生・進化や、人間の思考・認知・判断の仕組みなどを、生物学、認知科学、脳科学等を通じて学びます。

人と社会エリア

意思疎通における言語の仕組みや、先史社会、多文化共生、社会における生活実践としての福祉、宗教観などを、社会学、文化人類学、コミュニケーション学等を通じて学びます。

国家と地域エリア

国家や地域の歴史、特徴的な経済・社会現象、政治と経済の関係性などを、政治学、経済学、史学等を通じて学びます。

地球・環境エリア

地球がもつ資源や、地球環境の変化による災害、生命が環境に与える影響などを、地球惑星科学、社会・安全システム科学、生物学等を通じて学びます。

エリア横断

4つのエリアによる学びの共通の基礎となり、さらには構想を発展させる役割を担う横断的な科目、例えば「デザイン思考」、「データサイエンス」、「グローバル・ヒストリー」等を履修することにより、課題・問題の解決に必要な知識・能力を身につけます。

1年次

2年次

幅広い学問分野や技能と、学問を課題解決に

基幹教育

九州大学で学ぶ全ての学部学生が履修します。「ものの見方・考え方・学び方」を学び、深い専門性や豊かな教養へとつながる知識、技能を身につけます。共創学部では言語文化科目に「英語インテンシブコース」を設け、英語の運用能力の向上に重点を置く徹底した英語教育を行います。

- 基幹教育セミナー
- 課題協学科目
- 言語文化科目
- 文系ディシプリン科目
- 理系ディシプリン科目
- サイバーセキュリティ科目
- 健康・スポーツ科目
- 総合科目

共通基礎科目

- 共創デザイン思考発想法
- フィールド調査法
- 科学論
- データサイエンス基礎
- 複雑系科学入門
- グローバル・ヒストリー
- グローバル・エシクス

協働科目

- 共創基礎プロジェクト1
- 共創基礎プロジェクト2
- 共創プロジェクト1
- 共創プロジェクト2

構想科目 エリア基礎科目

- 遺伝学と進化
- Molecular & Cell Biology
- Brain & Information
- 社会哲学論
- 言語コミュニケーション論
- 社会共生論
- 地域研究基礎論
- 政治・経済基礎論
- 歴史基礎論
- 地球の理解
- 自然環境と社会
- 自然災害・資源
- 地球環境実習

経験科目

- 異文化対応1
- 異文化対応2
- 海外活動A1
- 海外活動A2
- 海外活動B1
- 海外活動B2

必要に

カリキュラムをデザインし、履修するアクティブ・ラーニング(能動的な学習)をもとにした教育を行います。全学共通である学びの「幹」を底した語学教育によって、実践的に活用できる言語能力の獲得も目指します。

●:基幹教育科目、●:人間・生命エリア科目、●:人と社会エリア科目、●:国家と地域エリア科目、●:地球・環境エリア科目、●:エリア横断科目、○:その他科目

3年次

4年次

活かすアクティブな態度と思考法を獲得

課題解決の方法等を、
複数の学問分野の知識や
技能を組み合わせる構想

●高年次基幹教育科目

専攻教育

構想科目
エリア横断科目

- デザイン思考プログラミング演習
- デザイン思考プロセス演習
- デザイン思考エンジニアリング演習
- ビッグデータ処理
- 実データ解析技法
- データアナリティクス
- 物理学の歴史と哲学
- 地学と生物学の歴史と哲学
- 科学技術社会論
- 複雑系科学論
- Thermo-Dynamical Properties
- 量子現象科学論
- Python Programming for Analysis

共創科目
ディグリープロジェクト
(卒業研究)

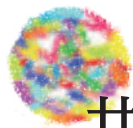
- ディグリープロジェクト1
- ディグリープロジェクト2
- ディグリープロジェクト3

共創科目
エリア発展科目

- | | | | |
|-----------------------------|-------------------|---------------|-------------|
| ●進化生物学 | ●多文化共生の世界秩序 | ●比較地域研究 | ●地球物質科学 |
| ●発生生物学 | ●教育倫理学 | ●東アジア地域研究 | ●大気海洋科学 |
| ●Physiology and Behavior | ●人間社会研究法 | ●地域生態論 | ●地球の変動 |
| ●Stress and Nutrition | ●言語とコミュニケーションA | ●開発経済学 | ●社会の中の地球科学 |
| ●Biochemistry | ●言語とコミュニケーションB | ●国際関係論 | ●地盤学と災害 |
| ●Advanced Molecular Biology | ●議論と創造のコミュニケーションA | ●国家と政治 | ●生物多様性科学 |
| ●病態生理 | ●議論と創造のコミュニケーションB | ●日本経済史 | ●保全遺伝学 |
| ●健康の科学 | ●異文化とコミュニケーション | ●埋蔵文化財から見える世界 | ●環境保全・再生 |
| ●Cognitive Science | ●メディアとコミュニケーション | ●地域史 | ●流域環境学 |
| ●Bioethics | ●先史社会を知るA | ●比較史 | ●環境地理学 |
| ●生命情報科学 | ●先史社会を知るB | | ●環境都市政策 |
| ●システム神経科学 | ●国際福祉論 | | ●東アジアの経済地理学 |
| | ●生き方の人類学 | | ●環境ガバナンス |
| | ●国際政治学 | | ●環境・エネルギー学 |
| | ●グローバル芸能論 | | |

○レクチャーシリーズ

応じて他学部などの科目を履修



共創学部の英語教育

共創学部には英語を学ぶ「シカケ」がたくさん用意されています。

確かな語学力を身につけ、世界へ羽ばたくためのプログラムがここにはあります。

シカケ
1

英語を集中的に学ぶ 英語インテンシブコース

1年次では3つの科目からなる英語インテンシブコースで時事英語・学術英語を集中的に学びます。また、九州大学のSALC (Self-Access Learning Center) では留学生との英会話セッションや英語での勉強会などが開催されており、授業外でも、英語を使う機会が確保されています。

シカケ
2

全員必須の留学

共創学部では留学生を除く全員に留学が義務付けられ、1ヶ月程度の短期留学から1年間の交換留学まで様々なプログラムが用意されています。自分に合ったプログラムを見つけて、世界へ飛び出しましょう。

シカケ
3

英語で学ぶ専門科目

共創学部では様々な分野の授業が英語を用いて行われます。英語で専門科目を学ぶことで留学への準備となり、留学後には身につけた力を存分に発揮する場となります。

シカケ
4

英語で研究の成果を発表

英語で行う卒業研究発表会で自分の成果をきちんと伝えられるよう、英語そのものだけでなく英語の発表技法や論理展開などもしっかり学びます。また、英語での研究発表は国際的な学術会議等での発表の準備にもなります。

3つのテーマについて学ぶ

Global Issues

世界の時事問題について学びます。英語のニュースやエッセイなどを読んで要約や自分の考えを述べる訓練をし、同時に世界の課題を認識・発見する力を養います。

Japanese Issues

日本の時事問題について、留学生とともに英語で学び、日本を客観的に観察し、議論する力を身につけます。また、ディスカッションやディベートなどを通して、意見を共有し、高め合うプロセスを学びます。

Academic Issues

学術英語の基礎を学び、論理的な文章の作成方法、論文の書き方、効果的な発表の方法などを身につけます。また、学術的な発表や英文を理解する力を涵養します。

英語開講科目例

- Global Ethics
- Thermo-Dynamical Properties
- Stress and Nutrition
- Cognitive Science
- Language and Communication
- Global Social Welfare
- Comparative Area Studies
- International Relations
- Earth Material Science
- Biodiversity Science

ディグリープロジェクト (卒業研究)

学生自らが課題を設定し、これまでに学んだ知を組み合わせ、課題解決のための新しい知や価値の創出に取り組みます。課題の解決策を異なる2つの学問分野からアプローチし、課題の解決方法等を卒業論文等にまとめ、英語で発表します。



留学情報

グローバル社会において多様な分野で活躍する人材を育成するため、共創学部では海外大学への留学等を義務付けています(語学研修のみの留学は認められません)。全ての学生が異なる文化の中で学び活動する経験を積むことで、広く異なる歴史的・文化的背景や価値観の存在を認識し、国際理解・知識の拡大に加え、コミュニケーション力と行動力の向上を図ります。

なお、外国人留学生は、本学で学ぶことですので留学を経験していることなどから、原則として日本国内でのインターンシップ等を行います。

交換留学

海外の大学機関と締結した学生交流協定等に基づき、交換留学生として1年以内の期間で留学を行い、エリアの専門分野に関連する授業等を履修し、単位の取得を目的とする学修活動。

- 実施可能年次: 2年次～4年次
- 実施期間: 1学期(受入大学の学期)から1年間

海外インターンシップ 海外ボランティア 海外フィールド調査等

海外でのインターンシップやボランティア活動への参加、海外の大学機関におけるエリアの専門分野に関連する技術修練・習得、海外でのフィールド調査などを目的とする活動。

- 実施可能年次: 1年次～4年次
- 実施期間: 8日以上(移動日を除く)1年未満、かつ、30時間以上(演習科目の授業分)の学習時間

短期留学・研修

一定の語学力の保持などを条件に学内募集・選考を行う短期留学・研修プログラム、または参加を許可する海外の教育機関等が実施する短期研修プログラムへの参加を通じ、エリアの専門分野に関連する知識・技能の修得や、異なる歴史的・文化的背景や価値観の存在の認識と、国際理解・知識の拡大を目的とする学修活動。

- 実施可能年次: 1年次～4年次
- 実施期間: 概ね1ヶ月以内(プログラムによる)

海外留学等用の経済支援

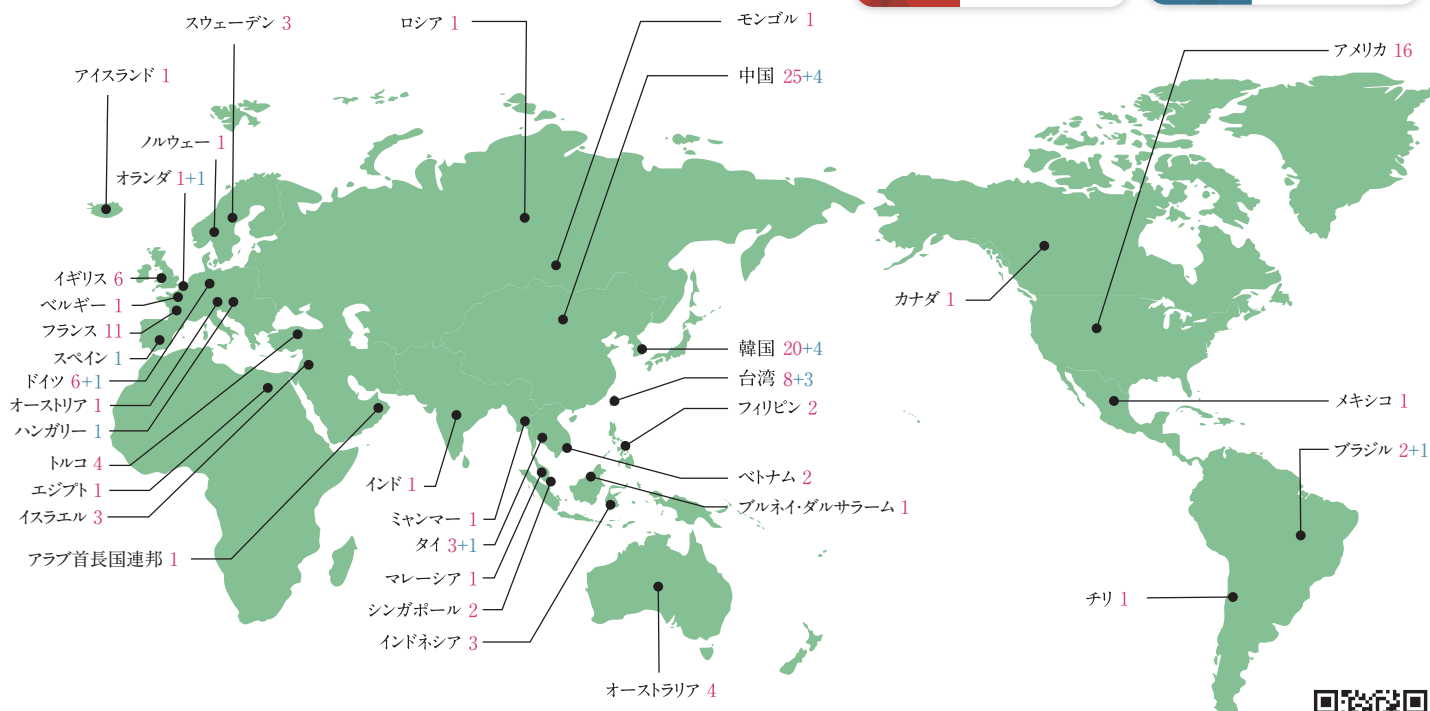
共創学部では、共創学部生対象の「海外留学等に係る経済支援」制度を設けています。

単位認定に必要な留学等を行う際、在学期間中に一回を限度として、留学等に係る費用の一部を補助する目的で留学準備金及び奨学金が給付されます。

- 留学準備金: 一律15万円(渡航費用やビザ取得費用、危機管理及び保険のための費用などを補助)
- 奨学金: 月ごとに1万～5万円(奨学金の金額は、留学先の地域、都市等により異なります) ※他の奨学金と併給可能です。

大学間・部局間交換留学による 留学先大学数

大学間 協定	33ヵ国・地域 136大学 (2021年5月現在)	共創学部 部局間 協定	9ヵ国・地域 17大学 (2021年5月現在)
-----------	--	-------------------	--------------------------------------



※九州大学の詳しい留学情報は以下URLをご覧ください。
<https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study>





留学体験記

共創学部の心強いサポーター

4年 中村 友香

共創学部は、留学支援が大変充実しています。留学担当の先生方だけでなく事務職員の方々も、留学先に関する様々なことについて相談に乗ってくれます。また、大学間の交換留学協定とは別に、学部独自の部局間協定も結んでおり、幅広い選択肢を用意してくれています。実際に私は、部局間交換留学生としてマカオ大学に留学をしました。私が長期留学を決心できたのは、手厚いサポートをして下さった皆さんのおかげだと思っています。また、共創学部には独自の留学奨学金があります。外部の奨学金をとるのは容易ではないため、一部でも費用の負担をしていただけることは大きな利点だと感じました。

私は、留学に対する意欲や憧れはあっても不安の方が大きい、というような人にもぜひ共創学部で留学を経験して欲しいと思います。長期留学の前に二度の短期留学を経験した私ですが、共創学部に入る前は自分が複数の留学プログラムに参加するような人になるとは思っていませんでした。入学するまで日本を出たことがなく、海外で学ぶことに不安を抱いていたからです。しかし、留学に強い意欲を持った友人たちと共にこの学部で学ぶことで、出身地である福岡にしか向いていなかった意識が段々と外にも向けられるようになりました。

共創学部に入れば、留学をする決断は既にしているため、いつ、どのくらいの期間、どこで、どんな勉強・活動をするのかということを考える段階から入ることができます。不安に邪魔をされて自分の可能性を広げる機会を逃すよりは、とりあえずでもどこかへ行って、いろいろなことを感じ、考える方が良いと思います。周囲の友達もいずれみんな留学するため、お互いに相談したり、励まし合ったりもできます。

結果的には、留学開始直後の新型コロナウイルス流行によりたった二週間で終了した留学生活でしたが、私は留学によって世界が広がり、その後の学びにも影響を与えられました。皆さんにも、共創学部でそのような経験をしてほしいと願っています。

(写真:マカオ大学にて)



共創学部は現在も部局間の協定を増やしています。詳しくはP10をご覧ください!

ソーシャルビジネスについて学ぶ

3年 伊藤 亜珠希

私は、2019年8月下旬からタイで行われた新興国アントレプレナーシップというプログラムに参加しました。これは、社会問題を解決する手法としてのソーシャルビジネスについての方法や例を学ぶ、事前講義、現地講義、帰国後の研究会での発表によって構成されているプログラムです。

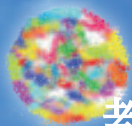
社会問題を解決するための活動としては、NPOやNGO、ボランティアなどがよく挙げられると思います。それらの活動が様々な場面で重要な役割を果たしていることは言うまでもありませんが、複雑な問題であればあるほど「継続的な支援」がないと根本的な解決にはつながりません。そこで私は、例え外部者の援助がなくても、現地の人が自分たちで解決する仕組みを作ることではできないのだろうかといつも考えていました。そのようなときに出会ったのが「ソーシャルビジネス」—社会問題をビジネスによって解決しようとする手法で、出た利益は社会をよりよいものにするために使うという仕組み—でした。この方法を新興国という海外のフィールドを使って実践的にかつチームで協働的に行える。まさに共創らしいコンセプトだと思い、私は共創学部に入って初めての留学にこのプログラムを選びました。

現地では同じ問題意識を持つ5つのグループに分かれ、バンコクでのフィールドワークを通してそれぞれの問題の解決案を考えました。私は「ジェンダー」のグループだったのですが、ジェンダーについて進んでいると言われているタイで問題を発見することはとても難しく、英語での意思疎通も大変な部分がありました。しかしチームメンバーの留学生や先生方との会話やマーケットでのアンケート、地元の方へのヒアリングを通して、コミュニケーションをとるには伝えようとする気持ちが最も必要なのだと強く実感しました。

今回の短期留学で、私は「人が生き生きと暮らすことのできる社会づくり」を軸に共創学部で学びたいのだと気づくことができました。今はそのための活動や勉強をしています。留学は、自分と改めて向き合う時間と、新たな視点を与えてくれるものです。自由に動くことのできる共創学部だからこそ、様々なことに挑戦して、自分らしい留学ができるのだと思います。

(写真:アユタヤにて)





教員インタビュー

Q 先生にとっての「共創」とは?

A 物事を様々な角度から考えることです。関連する分野を学ぶこと、読書などを通じて知識、視野を広げておくこと、共に仕事をするなどが重要だと思います。その上で、これまでとは違うアイデアやアプローチを思いついたり、ストーリーが描けるようになったりすることが「共創」ではないかと考えます。

Q 学生がこの学部だからできることは?

A 既存の学部と比べて、取り組みたい課題や方法などを選択する自由度が高いことと、試行錯誤が許されていることでしょうか。

Q 共創学部はどのような人におすすめですか?

A 他人に何かしてもらおうを待つのではなく、他人と同じことをするのが嫌で、自分から主体的に物事に組みもうとする学生さんにお勧めです。

Q 共創学部を目指す学生にメッセージを!

A この学部は自由度が高い一方で、自分がしっかりしていないとどうにもなくなる危険性をはらんでいる学部でもあります。大学入試がゴールではなく、共創学部合格してからがスタートだという意識で、学部生活を自分の人生の重要なステップとして過ごしていく、頭を使うことに疲れ果てて寝るという毎日を繰り返すことをいとわない人にぜひ、来てほしいです。

Q What do you like about ISI?

A I like the interactive nature of our school. This allows me to think much more concretely and practically about how to generate good solutions for society through studying decision science.

Q What do you think about ISI and how would you describe it?

A I see “interdisciplinary” as a form of innovation across disciplines – making new tools, new systems, and new values by combining different perspectives from the sciences and humanities. For instance, in my own research, by focusing on the mechanisms of brain and mind, we can try to improve decision making in many different aspects of society.

Q For whom would you recommend ISI?

A Our school is ideal for students who have wide-ranging interests, an open mind, and a willingness to try new things. It is also the best place for students who have a unique vision that goes beyond the usual boundaries of academic disciplines.

Q What can the students do after they graduate?

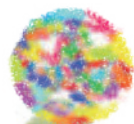
A Roughly speaking, I see three routes for our students after graduating.

- 1) Become a researcher in an innovative, interdisciplinary research field.
- 2) Become an innovative policymaker in business or government, either local or global.
- 3) Start your own venture or independent enterprise as a social innovator.

「共創」するのは 学生だけではない

鬼丸 武士 教授

LAUWEREYNS Johan 教授



学生インタビュー

Student Interview

農学×経済政策×経営

取り組みたい課題

農業の収入の不安定性の解消

近代の日本は第1次産業従事者の割合が低く、後継者不足の問題も深刻です。私の祖父母は農業をしているのですが、以前「近所の畑は後継者不足や経営難で放棄されているところが多い」という話を聞き、先述の問題が他人事ではないと体感しました。私は、農業の最大の課題は収入の不安定性であり、その解消によって今以上に職業の選択肢としても考えられるようになるのではと考えています。家族を助ける気持ちを原動力に、農業を他産業と連携させることで日本の農業維持を実現させ、現在農業と無縁の人にもイノベーションを起こしたいです。

田崎 暖乃さん

福岡県 東筑高校卒

2018年4月入学

宇宙×データ解析×設計

取り組みたい課題

スペースデブリの削減

スペースデブリとは、地球の衛星軌道上を高速で周回している金属の塊ですが、個体によっては時速3万キロ近いスピードのものもあり、例え小さくても同様に衛星軌道上を周回している数多の人工衛星にとって大変危険な物体です。携帯電話の通信や気象情報のためのデータなどで人工衛星を利用している私たちにとって、これは実は身近な課題なのです。そこで私はデブリを回収するための衛星の仕組みやデブリのデータ(軌道、速さ、大きさなど)を研究し、効率の良い削減方法を模索していきたいと思います。

中村 俊仁さん

長崎県 青雲学園卒

2018年4月入学



教育×社会×政治

Theme for Degree Project

Ideal Public Education in the Present Society

The people that society needs have changed with the times. However, the change in the education is relatively slow and our recent education system is not sufficiently adapted to the modern society. My degree project theme is to present the way education should be in order to make the world better place for all people.

竹下 綾音さん

福岡県 久留米高校卒
2018年4月入学



異文化×認知科学×差別

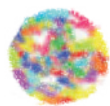
Theme for Degree Project

Unconscious Bias in Japanese Society

As foreign residents keep increasing in Japan, more consideration should be given to them. One of the obstacles to create a comfortable environment for foreign residents is the existence of unconscious bias. By studying the unconscious bias, I believe I can be the foundation of further research and ultimately, contributing to the creation of comfortable environment for foreign residents.

LEE KEN JIさん

マレーシア Poi Lam High School卒
2018年4月入学



エリア科目担当教員 (2021年8月1日現在)

人と社会エリア

■専任教員 Member



教授・学部長
鏑木 政彦
KABURAGI Masahiko
専門分野
政治思想史



教授
稲葉 美由紀
INABA Miyuki
専門分野
国際福祉、
現代社会の貧困問題と
社会的包摂



教授
井上 滋樹
INOUE Shigeki
専門分野
人間中心デザイン



教授
井上 奈良彦
INOUE Narahiko
専門分野
議論学とディベート、
コミュニケーション学



教授
溝口 孝司
MIZOGUCHI Koji
専門分野
考古学



准教授
内田 諭
UCHIDA Satoru
専門分野
言語学



准教授
大賀 哲
OGA Toru
専門分野
国際政治学



准教授
瀬平 劉 アントン
SEVILLA-LIU Anton
専門分野
哲学、臨床教育学



准教授
徳久 悟
TOKUHISA Satoru
専門分野
サービス・デザイン、
ヒューマン・コンピューター・
インタラクション、
イノベーション・マネジメント



准教授
長谷 千代子
NAGATANI Chiyoko
専門分野
文化人類学



准教授
舟橋 京子
FUNAHASHI Kyoko
専門分野
人骨考古学



准教授
李 曉燕
LI Xiaoyan
専門分野
知識科学、
第二言語習得論



講師
ヴァイス ダーヴィッド
WEISS David
専門分野
日本・東アジアの
思想史

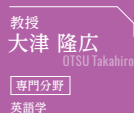


教授
大神 智春
OHGA Chiharu
専門分野
日本語教育学



教授
副島 雄児
SOEJIMA Yuji
専門分野
物性物理学

■科目担当教員 Adjunct Member



教授
大津 隆広
OTSU Takahiro
専門分野
英語学



教授
松永 典子
MATSUNAGA Noriko
専門分野
多文化共生教育論



教授
三隅 一百
MISUMI Kazuo
専門分野
社会学



教授
山口 裕幸
YAMAGUCHI Hiroyuki
専門分野
社会心理学



講師
田北 雅裕
TAKITA Masahiro
専門分野
まちづくり

国家と地域エリア

■専任教員 Member



教授・副学部長
鬼丸 武士
ONIMARU Takeshi
専門分野
比較地域研究、
政治史



教授
施 光恒
SE Teruhisa
専門分野
政治理論、政治哲学



教授
永島 広紀
NAGASHIMA Hiroki
専門分野
歴史学、東洋史



准教授
木附 晃実
KITSUKI Akinori
専門分野
開発経済学、
応用ミクロ計量経済学、
政策評価



准教授
田尻 義了
TAJIRI Yoshinori
専門分野
考古学



准教授
ホール アンドリュー
HALL Andrew
専門分野
日本・東アジア近代史



准教授
益尾 知佐子
MASUO Chisako T.
専門分野
現代中国の政治外交、
国際関係論



准教授
山尾 大
YAMAO Dai
専門分野
中東政治、国際関係、
比較政治



准教授
岡田 昌也
OKADA Masaya
専門分野
情報学、
行動情報処理、
マルチモーダルセンシング



准教授
金山 浩司
KANAYAMA Koji
専門分野
科学史



准教授
廣瀬 慧
HIROSE Kei
専門分野
統計科学、機械学習



准教授
ブレジナ ヤン
BREZINA Jan
専門分野
偏微分方程式

■科目担当教員 Adjunct Member



教授
内田 誠一
UCHIDA Seichi
専門分野
パターン認識



准教授
金子 晃介
KANEKO Kosuke
専門分野
マルチメディア情報学



准教授
小林 俊哉
KOBAYASHI Toshiya
専門分野
科学技術社会論



准教授
何 昕霓
Ho, Hsin-Ni
専門分野
触覚情報学



助教
稲村 徳州
INAMURA Tokushu
専門分野
イノベーション手法

■科目担当教員 Adjunct Member



教授
伊藤 幸司
ITO Koji
専門分野
日本中世史



教授
中野 等
NAKANO Hitoshi
専門分野
日本近世史



教授
波潟 剛
NAMIGATA Tsuyoshi
専門分野
日本近現代文学



教授
松井 康浩
MATSUI Yasuhiro
専門分野
政治社会史



准教授
オーガステイン マシュー
AUGUSTINE Matthew
専門分野
日本近現代史



准教授
北澤 満
KITAZAWA Mitsuru
専門分野
日本産業史



准教授
武田 友加
TAKEEDA Yuka
専門分野
応用経済



准教授
百村 帝彦
HYAKUMURA Kimihiro
専門分野
自然資源管理

■専任教員 Member



教授・副学部長
ローレンス ヨハン
LAUWEREYNS Johan
専門分野
認知神経科学



教授
伊良皆 啓治
IRAMINA Keiji
専門分野
脳情報科学、
脳機能イメージング、
生体医工学



教授
ドラモンド ダグラス
DRUMMOND Douglas
専門分野
Cytoskeletal Proteins,
Molecular Biology



准教授
姜 益俊
KANG Ikjoon
専門分野
生態毒性学



准教授
**スルチョードリ
ビシュワジット**
SURCHOWDHURY Vishwajit
専門分野
ストレス生理学



准教授
中村 真子
NAKAMURA Mako
専門分野
筋肉細胞生物学

エリア横断



教授
郭 俊海
GUO Junhai
専門分野
応用言語学



教授
木實 新一
KONOMI Shin'ichi
専門分野
情報学



教授
三木 洋一郎
MIKI Yoichiro
専門分野
医学教育学



准教授
稲垣 紫緒
INAGAKI Shio
専門分野
物性物理学



准教授
坂口 英継
SAKAGUCHI Hidetsugu
専門分野
複雑系科学、物理学



准教授
田島 博士
TASHIMA Hiroshi
専門分野
熱機関工学

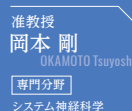


助教
田尾 周一郎
TAO Shuichiro
専門分野
素粒子物理学

■科目担当教員 Adjunct Member



教授
住本 英樹
SUMIMOTO Hideki
専門分野
生化学



准教授
岡本 剛
OKAMOTO Tsuyoshi
専門分野
システム神経科学



准教授
荻野 由紀子
OGINO Yukiko
専門分野
内分泌学



准教授
野田 百美
NODA Mami
専門分野
病態生理

地球・環境エリア

■専任教員 Member



教授
荒谷 邦雄
ARAYA Kunio
専門分野
昆虫学、
生物多様性科学



教授
大野 正夫
OHNO Masao
専門分野
地球物理学



教授
小山内 康人
OSANAI Yasuhiro
専門分野
地質学、岩石学



教授
菅 浩伸
KAN Hironobu
専門分野
自然地理学



教授
桑原 義博
KUWAHARA Yoshihiro
専門分野
鉱物学



教授
ハザリカ ヘマンタ
HAZARIKA Hemanta
専門分野
地盤工学、地震防災、
環境地盤工学



准教授
**ジャリリナスラパディ
サイド**
JALILINASRABADY Saeid
専門分野
Geothermal Energy,
Exergy



准教授
仙田 量子
SENDA Ryoko
専門分野
地球化学



准教授
中野 伸彦
NAKANO Nobuhiko
専門分野
岩石学



准教授
藤岡 悠一郎
FUJIOKA Yuichiro
専門分野
地理学



助教
足立 達朗
ADACHI Tatsuro
専門分野
岩石学、地質学



准教授
畑埜 晃平
HATANO Kohel
専門分野
機械学習

■科目担当教員 Adjunct Member



助教
松尾 和典
MATSUO Kazunori
専門分野
昆虫学、農学



教授
山下 潤
YAMASHITA Jun
専門分野
環境地理学



教授
吉田 謙太郎
YOSHIDA Kentaro
専門分野
環境経済学、政策学



准教授
阿部 康久
ABE Yasuhisa
専門分野
経済地理学



准教授
笠原 玉青
KASAHARA Tamao
専門分野
河川水文学



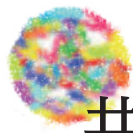
准教授
木田 新一郎
KIDA Shinichiro
専門分野
海洋物理



准教授
楠見 淳子
KUSUMI Junko
専門分野
分子進化学



准教授
清野 聡子
SEINO Satoquo
専門分野
生態工学



共創学部の入試について

新型コロナウイルス感染症に関する状況に応じて、やむを得ず選抜方法等を変更する可能性があります。選抜方法等に関する最新情報について九州大学のホームページ (<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/admission>) で随時発信いたしますので、出願の際には必ず最新の情報をご確認ください。

九州大学は、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価する全学的な入試改革を推進しています。この方針に基づいて、共創学部では「知識を問う入試から、能力を見極める入試への転換」を掲げ、志願者の能力を複数の観点から見極めるために、本学部が掲げるアドミッション・ポリシーに基づいて、次のような特色をもつ入学者選抜を実施します（アドミッション・ポリシーは共創学部ホームページをご覧ください）。

1. 4種類の選抜試験

本学部のアドミッション・ポリシーに述べた「求める学生像」の4つの観点から、志願者の能力や態度等を見極めるために、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「一般選抜」「国際型入試」の4種類の選抜試験を実施します。また、それぞれの入試類型の中でも複数の観点を組み合わせ、志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価します。

2. 文理共通問題

一学部一学科の学部として、独自入試では文理共通の試験問題を課します（留学生に対する試験を除く）。理系クラスで学んできた志願者も、文系クラスで学んできた志願者もどちらも解答可能な問題を用意し、いずれかが不利になることのないよう配慮します。

3. 志望理由書

これまでにない新しい学部であることに鑑み、すべての入試類型で「志望理由書」の提出を求め、学部への理解や適性などを確認します。

総合型選抜（募集人員：20人）

共創学部総合型選抜では、大学入学共通テストは課さず、第1次選抜及び第2次選抜を行います。

〈出願期間〉9月中旬

〈選抜期日〉10月上旬～中旬（第1次選抜）、11月上旬（第2次選抜）

〈合格発表〉11月中旬

入試のポイント

第1次選抜と第2次選抜のいずれの選抜でも「求める学生像」の4つの観点と大学で修学するための基礎学力という観点から評価します。第1次選抜では、調査書、志望理由書、活動歴報告書を総合的に評価して可否を判定します。活動歴報告書では正課、正課外の諸活動が評価の対象となります。第2次選抜では、実際に大学で行われる講義（人文社会系と自然科学系の2つの講義）を受講した上で執筆するレポート、集団討論、小論文、面接の成績を総合的に評価して可否を判定します。

学校推薦型選抜（募集人員：10人）

高等学校等の長からの推薦をもとに、学校推薦型選抜を実施します。推薦できる人数は、1校につき1人とし大学入学共通テストを課し、第1次選抜及び第2次選抜を行います。

〈出願期間〉11月下旬

〈選抜期日〉12月上旬～中旬（第1次選抜）、1月下旬～2月上旬（第2次選抜）

〈合格発表〉2月中旬

入試のポイント

第1次選抜と第2次選抜のいずれの選抜でも「求める学生像」の4つの観点と大学で修学するための基礎学力という観点から評価します。第1次選抜では、推薦書、調査書、志望理由書、活動歴報告書を総合的に評価して可否を判定します。活動歴報告書では正課、正課外の諸活動が評価の対象となりますが、特に高校での正課における学習活動を高く評価します。第2次選抜は、プレゼンテーションと面接を実施します。第1次選抜の評点、第2次選抜の評点、大学入学共通テストの「国語」「数学」「英語」の合計点、これらを総合して可否を判定します。大学入学共通テスト「英語」については、指定の英語能力試験の成績を提出することにより、大学入学共通テスト「英語」の得点として利用することが可能です。ただし、この場合においても、大学入学共通テスト「英語」の受験は必須です。（詳細は募集要項を参照のこと）

一般選抜 (募集人員:65人)

大学入学共通テストと個別学力検査の合計点、志望理由書を総合的に評価して可否を判定します。本学部では幅広い分野の基礎知識と問題解決のための思考力をもった学生を求めています。そのような志願者を選抜するために、大学入学共通テストでは幅広い教科・科目を課し、高等学校で修得すべき基礎的な知識の学習の有無を評価します。また、個別学力検査では、「数学」「英語」「小論文」を課し、本学部で学ぶために求められる学力や思考力を評価します。

〈出願期間〉1月下旬～2月上旬

〈選抜期日〉2月25日、26日※前期日程のみ

〈合格発表〉3月8日

国際型入試 (募集人員:10人)

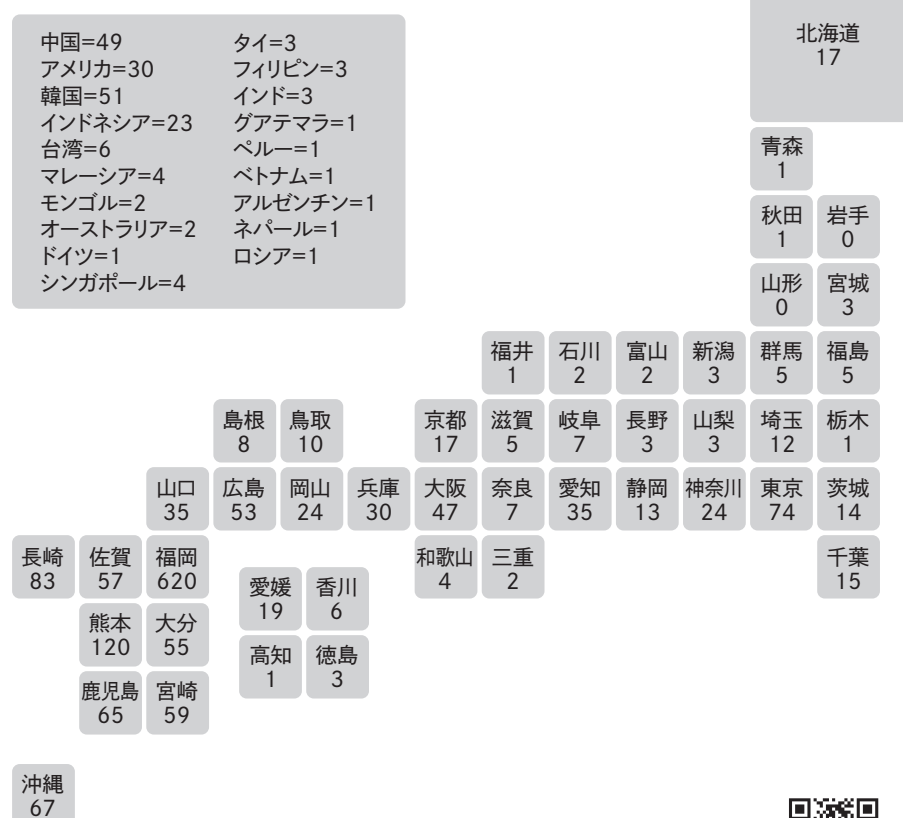
帰国生徒と海外留学生向けの入学試験です。帰国生徒選抜では、海外での学習状況を配慮し大学入学共通テストを免除しますが、個別学力検査で数学と英語を課し、本学部で学ぶための基礎的な学力があるかどうかという点から評価をします。また、面接、志望理由書を含む出願書類を「求める学生像」の観点から評価し、これらを総合して可否を判定します。

海外留学生向けには私費外国人留学生入試(4月、10月入学)を実施します。本学部で学ぶための基礎的な学力があるかどうかという点から日本留学試験等の成績を求めます。また、面接、志望理由書を含む出願書類を「求める学生像」の観点から評価します。

令和3(2021)年度入試結果

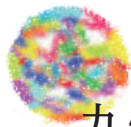
入試区分 (定員)		志願者数	合格者数	倍率
総合型選抜 (20)		124	19	6.53
学校推薦型 選抜 (10)		53	13	4.08
一般選抜 (65)		223	70	3.18
国際型 入試 (10)	帰国 (若干名)	2	1	3.6
	私費 (4月) (若干名)	22	4	
	私費 (10月) (若干名)	30	10	
合計 (105)		454	117	—

これまでの志願状況

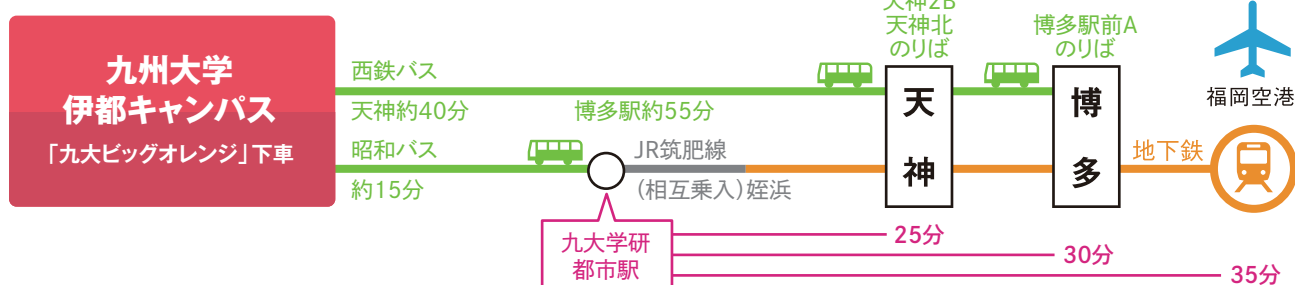


※詳しい入試情報は、入学者選抜概要や募集要項をご覧ください。





九州大学伊都キャンパス アクセス情報



■福岡空港から

「福岡空港」駅(地下鉄空港線)→「姪浜」駅(JR筑肥線へ乗換)→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車
 「福岡空港」駅(地下鉄空港線)→「博多」駅下車→「博多駅前A」停留所から直行バス(西鉄バス「急行」九大伊都キャンパス)行に乗車

■博多から

「博多」駅(地下鉄空港線:姪浜・唐津方面行に乗車)→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車
 「博多駅前A」停留所から直行バス(西鉄バス「急行」九大伊都キャンパス)行に乗車

■天神から

「天神」駅(地下鉄空港線:姪浜・唐津方面行に乗車)→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車
 「天神2B(ソラリアステージ前)」および「天神北(3)」停留所から直行バス(西鉄バス「急行」九大伊都キャンパス)行に乗車

■佐賀(唐津)方面から

JR筑肥線(姪浜・福岡空港方面行に乗車)→「筑前前原」駅下車→糸島市コミュニティバス「九大線」に乗車
 JR筑肥線(姪浜・福岡空港方面行に乗車)→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車

お問い合わせ

九州大学学務部基幹教育・共創学部課(伊都キャンパスセンター1号館2階)

〒819-0395 福岡市西区元岡744 電話番号:092-802-5890 メールアドレス:gazkyoso@jimu.kyushu-u.ac.jp



九州大学

詳しい情報は、共創学部ホームページをご覧ください。

<https://kyoso.kyushu-u.ac.jp/>



2021.7発行

表紙デザイン: 武田奈々(共創学部4年)